



◀保健福祉センターの
テープカット



保健・福祉・医療の拠点「保健福祉センター」

4つの施設が同時竣工

3月28日、平成6年度の事業として建設していた、「保健福祉センター」、簡易宿泊施設「魚の宿」、民俗資料収蔵庫「古いもの館」、農村環境改善センター「はなのき別館」の4つの施設の竣工式が行われました。

病院隣に完成した保健福祉センターは、保健福祉課、社会福祉協議会、母子センターがこの3日より業務を開始。

この広報が発行されるころには、新しい母子センターで第1号の赤ちゃんが誕生する予定。また、はなのき別館では、4月15日に第1号の結婚式が行われました。

“若者定住”に向け、頼もしい施設の完成です。



このホールから新しいふれあいが生まれそう「はなのき別館」



民俗資料がぎっしりつまった「古いもの館」

広報 ひがししらかわ

1995 4 No.406
平成7年

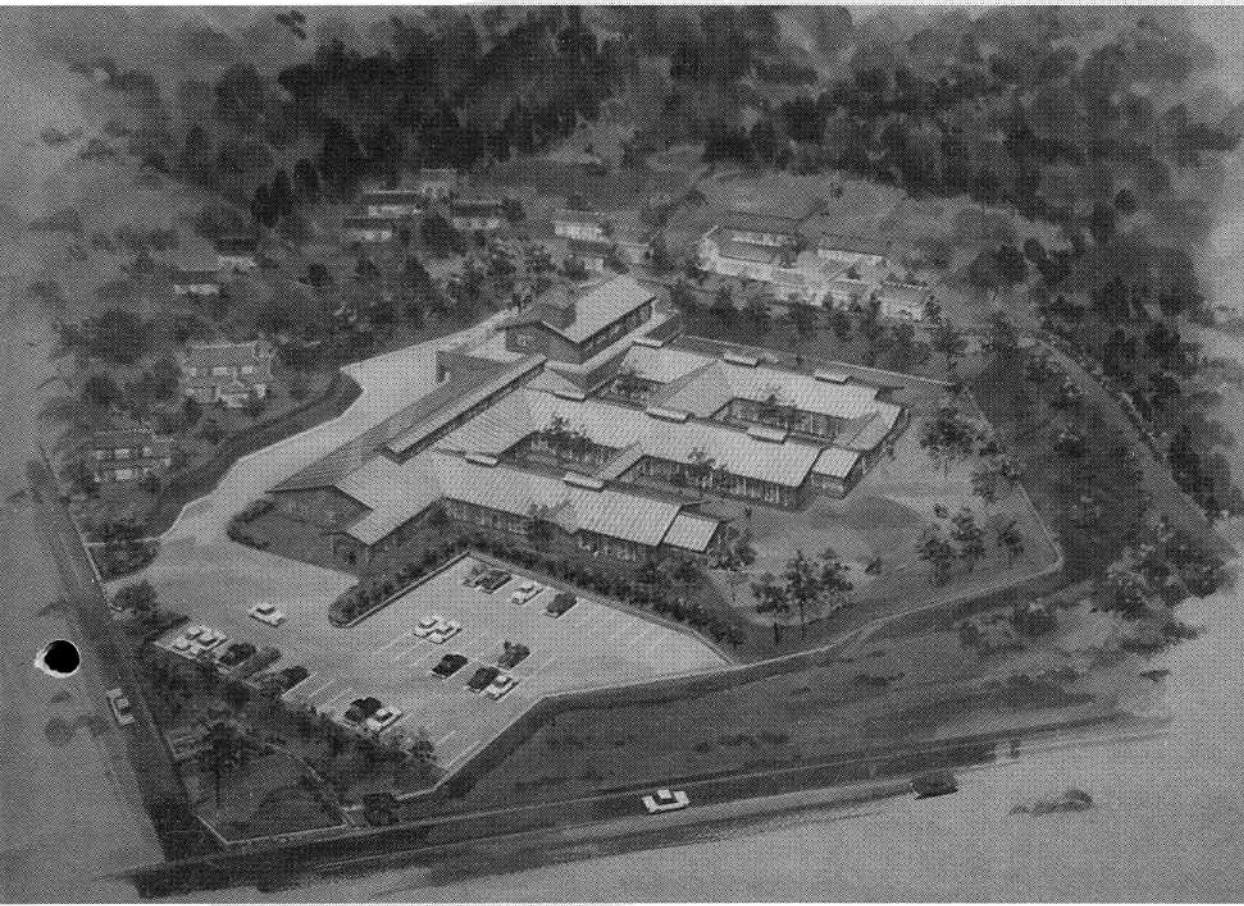
人口の動き

—3月末住民登録人口から—

世帯数	898 世帯
人口	3,368人
転入	19人
転出	28人
出生	3人
死亡	7人

先月と比較して13人減
昨年同月と比較して50人減

「サンシャイン美濃白川」ってこんな施設です



平成八年春オープンを目指し、白川町坂の東地内で工事がスタートした特別養護老人ホーム「サンシャイン美濃白川」。

施設の主体となる社会福祉法人白泉会をはじめ白川町、そして東白川村の協力で誕生するこの施設。いったいどんな施設になるのでしょうか。

今月は、現在白川町役場に仮事務所を設けている社会福祉法人白泉会を訪ね、同法人の理事であり、また施設長となられる犬塚繁道さんにお話を伺ってきました。

地域と密着した

温かみのある施設

「老人ホームという言葉から昔の養老院をイメージして欲しくないと思います。養老院というとうとうしても「姥捨山」という考え方がぬぐいきれないからです」。これは、この施設の施設長となられる犬塚繁道さんから開口一番飛び出したことばです。

この施設の建設にあたっては、一昨年から両町村で話し合いがもたれ、企業などからの出資によって昨年九月に、この施設の母体となる社会福祉法人白泉会が発足しました。

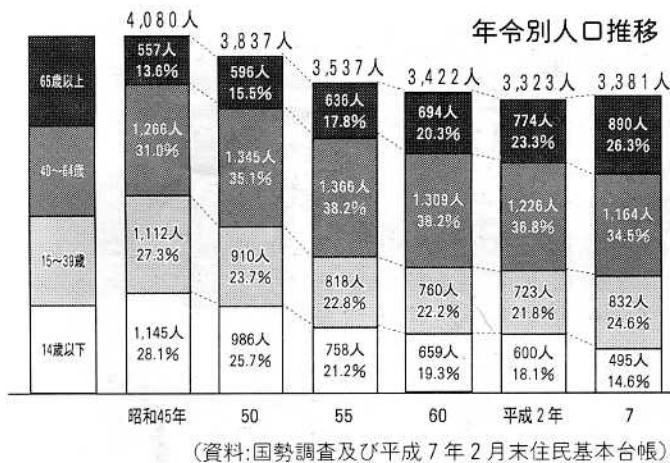
この白泉会の名称について犬塚さんは「白川の清流のイメージと近くに湧



工事の進む「サンシャイン美濃白川」

く温泉をイメージしたもの」とか。理事長で白川病院院長の野尻眞氏を含め、十人の理事、二人の監事からなる白泉会。村からは理事に安江廣文さん（大明神）が、監事に村雲孝平さん（日向）が参加しています。

この施設について犬塚さんは「良い意味で地域の人たちが土足で自由に出入りできるような施設にしたいと考えています。例えば施設内に喫茶コーナーなどを設けて、近くの人たちに気軽に立ち寄りておしゃべりしていただく、また、利用者の皆さんも話に加わってそこで地域との和ができる。といったように、利用されるお年寄りにとって「安心して生活ができる場」としていくことが一番の願



「具体的には、ベッド数が七十床設けられ、その中の五十床が特別養護老人ホーム部門に、二十床が短期滞在型のショートステイ部門として使用されます。また、せせらぎ荘と同様にデイサービス部門もありますが、このデイサービス部門とショートステイ部門は、村にはすでにせせらぎ荘がありますので利用は白川町の人のみとなります。私たちの村は、特別養護老人ホーム部門の内十床程度を優先的に利用ができる予定です。」

「西暦一九九九年には村の高齢者比率が三割を越える…」

左のグラフをご覧下さい。これは、

村の年齢別人口推移を表したものです。人口が少しづつ減っているのに対し、六十五歳以上の高齢者の数は、少しづつ増えています。また、国勢調査の数値を基礎にした計算では、一九九九年には、村の六十五歳以上高齢者比率が、三割を越えると予測されています。

これは単に、村に高齢者が増えるという問題だけに止まりません。一人暮らしのお年寄りや、夫婦だけの高齢者世帯が増えることになるのです。現在村内には、一人暮らしのお年寄りの世帯が約六十世帯あります。もちろん現時点では、ホームヘルパーなどの援助を受けている人もありますが、通常生活するうえで、食べることなど身の回りのことは、全部自分でできる人たちはかなりです。しかし、いつ何時、例えば「寝たきり」とか「痴ほう」に

なるとも限りません。家に面倒をみてくれる家族がいる場合はいいですが、高齢化の最大の問題は、独居世帯や面倒をみる人も高齢者という世帯が徐々に増えてくることにあります。全ての人元気に、健やかに齢を重ねることは理想です。しかし、「もしも…」の場合を考えたわけにはいきません。そうした場合に備え、村独自で施設を構えることは理想ですが、内容面の充実なども考慮し、白川町との協力で近い位置での施設の建設となりました。

村の相談窓口は 保健福祉課

特別養護老人ホーム部門は、寝たきりや痴ほう等いわゆる重度で要介護のお年寄りが対象で、完全看護の体制となります。これまで老人ホームは、家



社会福祉法人白泉会
施設長理事 犬塚 繁道さん(右)
事務員 多賀 直子さん

今回インタビューに答えて下さった犬塚繁道さん(55)は、碧南市のご出身。日本福祉大学卒業後、同大学の事務局長などを経て、昨年5月に白川町へ移住され、白泉会の施設長理事に就任された福祉畑一筋の大ベテランです。また、事務員の多賀直子さんは、白川町のご出身。「お年寄りのためになる仕事がしたい」という希望を胸に同法人へ就職。お二人とも開設準備に追われ大忙しの毎日です。

また、この施設では、特別養護老人ホーム、デイサービス、ショートステイのサービス以外の活動として、家庭介護者の方の支援の一環として「介護教室」なども行う計画。犬塚さんは、こうした活動を行うためにボランティアの力に大きな期待を寄せています。「例えば『友の会』といったボランティアグループを育てて、定期的に食事サービスを行ったり、利用者の生きがいづくり活動にお手伝いいただいたりといった活動に期待しています…」。

今までにないような新しいタイプのこの施設。オープンまでに村でもこの施設の説明会が開かれる予定です。

春であいのとき、わかれのとき...

長い間おつかれさまでした 東白川村消防団入退団式

平成七年の東白川村消防団入退団式が、去る三月二十五日、はなのき会館で行われ、多年にわたり消防団活動にご尽力下さった十二人の皆さんを送り出すとともに、新たに二十名の新入団員を迎えました。

式典では、退団された皆さん一人一人に村長から感謝状と記念品が渡され、退団者を代表して副団長を勤めた苅田和博さんが謝辞を述べました。また、新入団員は平均年齢二十六歳というまさに新進気鋭の若者たち。四月からこの新しい戦力を加え、一層消防団活動の充実を図ります。入退団者と新年度幹部辞令を受けた人は次のとおりです。(敬称略)

●退団された人(十二名)

【本部】副団長―苅田和博▼分団長―今井義尚

【第一部】分団長―島倉宏之▼部長―安江清造、安江守人、苅田章雄

【第二部】分団長―田口昌弘▼部長―栗本丈兒、長尾政文

【第三部】部長―田口喜一▼班長―安江千章

【ラッパ隊】部長―今井孝司

●入団された人(二十名)

【本部】今井信和(中通)

【第一部】有賀浩幸(平)、安江範(下親田)、安江正巳(上親田)

【第二部】今井誠、今井美道(神付)

【第三部】安江淳(日向)、今井明義

小林将矢、桂川克雄(陰地)、安江八城(栃山)、高木誠(黒淵)、田口泰宏(大明神)

【ラッパ隊】安江由次(平)、藤井一矢(加舎尾)

●幹部辞令を受けた人

【本部】副団長―安江祐策▼ポンプ部



村長から記念品を受ける退団者の皆さん



新入団者を代表して宣誓する安江正巳さん

長―古田節也▼警備部長―小池毅▼予防部長―稲垣進▼ラッパ部長―古田俊之▼本部部长―安江良浩▼本副部長―伊藤保夫

【第一部】部長―中島泰幸▼副部長―田口幸生、安江誠

【第二部】部長―村雲陽司▼副部長―安江好弘、安江弘武

【第三部】部長―松岡昭信▼副部長―安江博文、安江秀利

【ラッパ隊】隊長―安江敏治▼副隊長―村雲佐江樹

今年1年
よろしくお願
い
します

各団体等役員紹介

平成七年度の各種団体長や役員などが決まりました。

この四月から皆さんの代表としてご苦勞を願うことになったのは次の皆さんです。(敬称略)

区長

【神土】河田 廣道(西洞)
【越原】稲垣 昇(陰地)
【五加】嶋田 進(宮代)

事務嘱託員Ⅱ組長

【神土】大口―今井敬治▼平―田口泰造▼下親田―安江純熙▼上親田―島倉完▼中通―村雲正幸▼神付安江保民▼中谷―田口輝久▼加舎尾―安江万代子▼西洞―安倍徹

【越原】曲坂―苅田喜作▼日向―安江勇夫▼陰地―金尾竹雄▼栃山

紹介します新しい先生 教職員人事異動

今年も四月一日付で小中学校教職員の人事異動がありました。今年の異動では、小学校の木村校長先生をはじめ七名の先生方が転出され、七名の先生方が着任されました。異動のあった先生は次のとおりです。

【転出された先生】 (敬称略)

▽東白川小学校△

校長―木村龍幸(美濃加茂市加茂野小へ)▼教頭―竹中弘行(大垣市川並小へ)▼教諭―岩井哲一(川辺町川辺東小へ)、尾崎康子(八幡町小那比小へ)

▽東白川中学校△

教諭―古田晃裕(明宝村小川小へ)、星名晶子(加子母村加子母中へ)、細井千暖(各務原市緑陽中へ)

【転入された先生】 (敬称略)

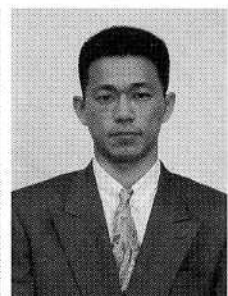
▽東白川小学校△



校長 高井純平 (54歳―美濃加茂市) 御高町 御嵩小から



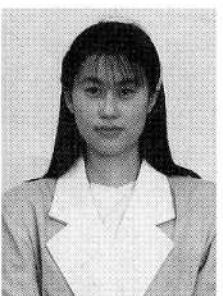
教頭 兼 松 悟 (44歳―坂祝町) 可児市 今渡南小から



教諭 竹腰宣行 (25歳―美濃加茂市) 可児市 西可児中から



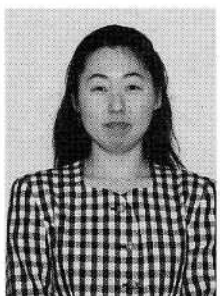
教諭 宮脇由紀子 (26歳―可児市) 可児市 東明小から



教諭 脇あゆみ (22歳―可児市) 新採用



教諭 上田浩之 (29歳―可児市) 御高町 御嵩小から



教諭 林里美 (25歳―御高町) 御高町 上之郷中から

▽東白川中学校△

期待のルーキー登場 ●村と関連団体退職及び新採用

【退職】 (敬称略)

「一月三十一日付」佐々木英雄(農務課)、高木三年(社会福祉協議会) 「三月三十一日付」今井信子(教育委員会)、熊崎かな代(東白川病院)

【新採用】

2月1日付	4月1日付	4月1日付	4月1日付	4月1日付	4月1日付	1月1日付
桂川 克雄 (陰地)	島倉久美子 (西洞)	樋口 一則 (中谷)	今井 礼子 (西洞)	加藤 泰世 (上親田)	神戸 正紀 (平)	安江 由次 (平)
《ふるさと企画》	《社会福祉協議会 せせらぎ荘》	《社会福祉協議会 せせらぎ荘》	《教育委員会 東白川小学校》	《越原保育園 保母》	《企画財政課 税務係》	《農務課 課管理係》
27歳	38歳	23歳	40歳	24歳	22歳	24歳

―安江正木▼黒淵―安江房好▼大明神―熊沢信彦

【五加】▼柏本―安江庚巳▼宮代―今井保三▼大沢―古田孝一▼下野―田口光男▼久須見―今井祐一

◆PTA

【小学校】▼会長―安江一成(大明神)▼副会長―安江正孝(大口)、安江正樹(神付)

【中学校】▼会長―今井俊郎(陰地)▼副会長―田口和道(加倉尾)、今井英信(宮代)

◆子ども会

▼会長―古田茂樹(久須見)▼副会長―今井嗣尚(平)、安江正隆(黒淵)、今井利文(下野)

◆高校生保護者会

▼会長―今井久喜(大沢)▼副会長―村雲義英(中谷)、安江博(枋山)

◆婦人会

▼会長―早瀬智登子(上親田)▼庶務―桂川よし(陰地)▼神土支部長―安江経子(上親田)▼越原支部長―安江すみ(大明神)▼五加支部長―今井典子(柏本)

白川大工の技さえる

— 阪神大震災復興ボランティア活動 —



今、ここにあった商店街は見る影もなく

あの阪神大震災から三か月。このほど

東白川木造建築組合の皆さん五人が、

芦屋市を訪問、帰村後、さっそく代表の

安江洋次さんに話を伺いました。

■阪神大震災ボランティア

安江 洋次さん(曲坂) 大工
土井 啓也さん(陰地) 大工
村雲 章さん(神付) 大工
藤井 悟さん(大沢) 大工
村雲 忠夫さん(神付) 瓦職人
桂川 憲生 (役場・随員)

活動は弱者世帯の

修繕ボランティア

「テレビで見えてはいましたが、想像を絶する悲惨さでした」とは、安江さんの率直な感想です。

今回の活動は、県産直住宅協議会の呼びかけで行ったもので、東白川木造

建築協同組合は、身体障害者、独居老人など弱者世帯の住宅の修繕ボランティアへの参加となりました。

三月二十九日、午後十時から役場前で行われた出陣

式を終えた一行はたくさんの

の激励を背に一路芦屋市へ。

芦屋市は、「芦屋のはずれ」と呼ばれる高級住宅街を控え、個人の納税額は日本一という裕福な町。しかし、安江さんたちの見たそこは、市内の古い商店街はアーケードのみを残し、地区ごとに全壊する所など被害は大きく、四百人に及ぶ死者を出していました。

屋根瓦の修繕が中心

寝泊まりはテントで

安江さんたち一行は、一週間の予定で五戸の世帯の修繕を計画。現地での宿舎は、自衛隊のテント。食事は、全て外食だったとのこと。また東白川より暖かいと思っていた一行でしたが、予想外の寒さとひどい騒音で、なかなか熟睡とはいかなかったようでした。具体的な修繕内容は、屋根瓦の破損

屋根瓦の修繕が中心

寝泊まりはテントで

具体的修繕内容は、屋根瓦の破損



仕事の合間にホット一息

村出身の被災者

から礼状届く

村民の皆さんから協力いただいた義援金は、三月末日までに五百五十万二千二百七十一円となりました。義援金は既に日本赤十字社などを通じ、被災地へ届けられました。村では、村出身の被災者を調べ、報告のあった方八人へお見舞い金をお送りしました。お礼状が何通か届きましたので、その中の一通を紹介しましょう。

前略 先日の大震災の際には、お見舞いを有難うございました。村民の皆様のお心遣い嬉しく思いました。今も揺れているような気がして夜中に飛び起きたり、子どもたちも寝られない日が続いています。私たちの住んでいる地域は比較的早くガスも水道も復旧し、中学校も三月一日からは午後の授業が始まり生活も少しづつですが元に戻りつつあります。地震の時は死さへ覚悟しましたが、壁の亀裂と家具や食器が壊れただけで済みました。子どもたちは担任の先生や同級生を亡くし悲しい思いをしましたが、今では少し立直ったようです。交通事情も悪く街のあちこちで壊れたままの家や傾いたままの家が多く見られ、街も人も直るのにはまだ時間がかかるようです。これからは、生きていくことに感謝して毎日を生活していくつもりです。村民の皆様によりしくお伝え下さい。

神戸市東灘区

実光久子

被災地の復興に



瓦の下にはぎっしり土が...



畳を起こして床の修繕

による雨漏りと、基礎陥没からくる動かなくなった建具の修繕が中心。大工さんも急きょ村雲忠男さんの指導のもと互職人に「みんな眠れずに疲れはたまりましたが、どの家庭でも、なかなか大工さんが来てくれないので本当に大助かりです」という言葉をいただくと、疲れが和らぐ思いでした。」。

予定を変更し

三戸を追加修繕

一行は、予定の五戸は三日間で終了しましたが、今回の修繕の申し込みに取りまとめているボランティア協会から「まだ百戸近い申し出があり、中には目の不自由な方の家庭もある」との話が出て相談の結果、資材が多く必要な屋根工事以外の修繕を行うこととしたそうです。その工事も四月三日には



被災地ではテントで寝泊り

完了。四日の午前中には関係者の出迎えを受け、全員無事村に帰ってきました。芦屋市での六日の間には、芦屋地区のケーブルテレビの取材を受けることとなり、関西という縁遠いところで、東白川の木造建築のPRもされたとのこと。

「テレビの取材でも話しましたが、本当に時間があればもう少し手伝いたかったし、機会があればもう一度行きたいという気持ちになりました。良い経験だったと思います。今回、合計八戸の修繕ができ、また、全員無

神主さんも被災地復興に一役

「関西、四国あわせて被害数三百九十二社」。阪神大震災では尊い人命や、住宅などがたくさん失われましたが、国の重要文化財なども含めた神社の被害も多大でした。

「こうした神社の復興のお手伝いを」と県内の神職の皆さんが三月中に二回にわたるボランティア活動を実施。二回目となる三月二十九日には、参加九人の中に村から村雲厳美さん（中通）と安江廣文さん（大明神）、技術者として板金業の安江里巳さん（下親田）が加わり、神戸市東灘区にある三王神社を訪ね仮設住宅建設のお手伝いをしました。

「三か月たっていますが、一步裏手はほとんど手付かず。神社は、本殿が傾いたままの状態。町はどこが水平なのかわからないくらいでした」とは安江廣文さん。一行はまる一日で仮設住宅を建て帰りました。



修繕後、独居のお年寄りと

事帰ることができたのも関係者の皆様の周到な準備と心温かいご支援のおかげだと思えます。ありがとうございます」と安江さんは話してくれました。



写真提供：岐阜県神道振興会

おし せ ら

こんにちは
社協です

「活用下さい」「福祉ビデオ」
急に介護が必要になった...どうしたら良いかわからない”
そんな時、福祉ビデオは心強い味方です。介護を受ける方を第一に考え、体のふき方や排せつの世話から食事面の心配りまで二十種類がそろっています。もちろん貸し出しは無料。お申し込みは保健福祉センターへ。

今年 国勢調査年 ご協力お願いします

十月一日、全国一斉に国勢調査が行われます。この調査は、大正九年から五年ごとに行われ、十六回目にあたる今回は、特に二十一世紀の日本を考える基礎づくりという重要な意味があります。

調査結果は、国や県、市町村が今後の行政を考えていく大切な資料となり、私たちの暮らしのさまざまな分野で生かされています。赤ちゃんからお年寄りまで、日本に住んでいる全ての人が調査の対象となります。九月下旬に、世帯ごとに調査表を配布します。調査表にある質問は十七項目。その内容は統計以外の目的に使用することは法律で固く禁じられていますので、ありのままをご記入下さい。あなたに記入いただいた結果が国民全体の貴重な財産となり、快適で住みよい日本、安心できる未来を築くための道しるべとなるのです。

平成七年国勢調査に、ご理解ご協力をお願いします。

人口動態調査に ご協力を

厚生省では、人口動態調査を毎年実施しています。この調査は、皆さんからの出生、死亡、死産、婚姻、離婚の各届出書をもとに、出生や死亡の状況などを調べるものです。国勢調査年には、併せて職業も記入していただきます。調査結果は、今後の保健福祉向上に役立つための統計資料として利用されます。本年は、国勢調査の年ですので、届け出をされる人は、ご面倒ですが、ご協力お願いします。

【期間】平成七年四月一日
～平成八年三月三十一日
【対象者】出生、死亡、婚姻、離婚届を出される人
※詳しい内容は、役場窓口でお尋ね下さい。

防霜ファンを お使いの皆さんへ

お茶のシーズンが近づき防

霜ファンが動き出す時期がやってきました。防霜ファンをご使用の際には、必ず次のことをご確認下さい。

- ①施設の点検及び試運転は必ず行い、ファンの回転確認をして下さい（試運転は、使用前直前をお願いします）。
 - ②万一、不良箇所発見の場合、ただちに修理して下さい。
 - ③ファンが故障した場合のメーカー代理店、電気工事店等、関係箇所の連絡先を再確認のうえ、緊急時に備えて下さい。
 - ④停電した際、自動的にスイッチが「切」になる機種がありますので、電気がついた場合、スイッチが「入」になっていることを必ず確認して下さい。
- ※もし、異常を発見されましたら、すぐにメーカーか電気工事店、または中部電力までご連絡下さい。
- 中部電力株式会社
サービスセンター
テリション ☎ 〇五七六（三三）
二〇五四 ▼ 白川サービスセンター
ショーン ☎（二二）一〇七四



緑の羽根募金運動

みんなの手で
大切な緑を守りましょう

けいじばん

【戸籍】 (敬称略)

● いつまでもおしあわせに

{安江 延之 (下親田)
安江さつき (栃山)
山田 勝彦 (御高町)
村雲美和子 (陰地)}

● 誕生おめでとございます

(大明神) = 安江 達哉 } 未智留 (四女)
弘子 }
(陰地) = 安江 武司 } くるみ (二女)
みどり }
(下親田) = 安江 道彦 } 南美 (三女)
千伴子 }

● おくやみ申し上げます

今井いと江 82歳 (加舎尾)
田口 稔 85歳 (平)
古田 宗一 84歳 (大口)
粥川喜久男 85歳 (陰地)
安江 ゆき 87歳 (栃山)
安江 徳一 85歳 (日向)
安江 正人 47歳 (大明神)

【善意】 (敬称略)

【中学校施設整備指定寄付】
現金100万円 = 笹俣勇夫 (春日井市)
【社会福祉施設整備指定寄付】
現金5万円 = 安江一美 (栃山)
【病院事業指定寄付】
現金10万円 = 青木一博 (日向)
【社会福祉協議会へ】
現金30万円 = 田口邦久 (平)
現金10万円 = 古田伸幸 (大口)
【せせらぎ荘へ】
現金10万円 = 今井 稔 (加舎尾)
現金10万円 = 安江勇夫 (日向)
【東白川小学校へ】
一輪車4台 = 安江政秀 (尼崎市)
食器棚1台 = 今井信子 (大沢)
木琴2台・鉄琴1台 = 平成6年度卒業生一同 (34人)
【東白川中学校へ】
体育館用大時計1台・発泡スチロールカッター1台
= 平成6年度卒業生一同 (43人)
【神土保育園へ】
ひな人形一式 = 故古田宗一 (大口)
【越原保育園へ】
パネルステージ1台 = 平成6年度保護者会一同 (5名)
絵本・おもちゃ = 稲垣 進 (陰地)
【五加保育園へ】
ラベルワープロ1台 = 古田小夜子 (久須見)、野村琴江 (柏本)、今井太恵子 (下野)
【越原地域集会所へ】
台所用品 (コップ100個、おひつ3個、ザル5個、ポット2個、おたま5個、しゃもじ3個)
= 青木一博 (日向)

保健婦だより

念願の保健福祉センターが完成し、四月三日より業務を開始。一階には、保健福祉課と社会福祉協議会が、二階は、生まれ変わった母子健康センターです。近くにお越しの際は気軽にお立ち寄り下さい。

広報モニターを募集します

広報モニターの皆さんの任期満了に伴い、地域の情報窓口を努めていただくモニター七人を募集します。

読んで楽しい広報紙、村民に親しまれる広報紙づくりをお手伝い下さい。

【対象年齢】特別にありませんが、幅広い年齢層の意見を聞けるよう調整したいと思います。

【任期】二年間 (平成九年三月三十一日まで)
【申し込み期間】平成七年五月三十一日まで

月三十一日(水)
【詳細・申し込み先】役場企画財政課 (有線五一八五)

可茂行政事務組合が設立

村を含めた可茂地域の二市九市町村に、この四月から可茂広域行政事務組合が設立されました。この組合は、総合的で効率的な事務処理や組織強化などを狙いにしたものです。管内には今まで可茂消防事務組合など六つの一部事務組合と二つの広域協議会があり、この中の、広域行政推進協議会と広域観光推進協議会、視

聴覚教育事務組合が一本化し設立となったものです。

子どもたちを交通事故から守りましょう

桜の開花とともに、新入学(園)児の初々しい姿が見かけられる時期となりました。集団生活など、新しい世界に踏み込んだ子どもたちを、温かく見守りたいものです。小さな命を悲惨な事故から守るためには、子どもの行動特性や交通事故の特徴などについて正しい理解が必要です。

【子どもの特性】
▼何かに夢中になると、周囲

のものが見えない▼ものごとを単純にしか理解しない▼その場の気分で行動する。

【子どもの交通事故の特徴】
▼道路への飛び出しが最も多い▼午後二時〜六時に多発

【子どもの交通事故防止】
①家庭では…交通マナーを守り、子どもの手本となる▼具体的なことばで教える▼忘れ物をさせない、出がけにしかないなど子どもの感情を刺激しないようにする

②ドライバーは…学校や保育園、停車中のスクールバスなど子どもの通行が予想される場所では必ず徐行する。

TOPICS

記念

願いはハナノキの里づくり
卒業生に苗贈る



代表で目録を受ける今井大明さん

三月十日の中学校卒業式の席上、観光協会から卒業生四十三人の一人一人に村の木ハナノキの苗がプレゼントされました。これは、平成五年に発足した同協会のハナノキ部会

が行ったもの。現在の村には、観光資源と呼べるものがないに等しく何か村の中で特徴のあるものを目玉にしたいとの考えから長期計画の中に白川に着目した「白川部会」とハナノキに着目した「ハナノキ部会」ができました。ハナノキ部会では「西暦二〇一〇年までに村中をハナノキで飾ろう」を合い言葉に苗づくりを開始、今回初の配布となったものです。

卒業生には、

苗とともに「人生の節目となる

今日の日の記念に家族と一緒に

植樹を」と書かれたメッセー

ジも添えられるなどご父兄の皆さんにも大好評

だったようです。



ハナノキの苗を手にする卒業生

受賞

三十一文字心を込めて
安江さんの短歌が入選

在りし日の妻が夜なべに作りたる

南細工あまたわが手に残る

栃山の安江化平さんのこの作品が、岐阜県老人クラブ連合会の主催した「芸芸・芸術作品コンクール」の短歌の部で見事優秀三席に入賞しました。このコンクールは、同連合会が一昨年

から行っているもので、短歌や俳句のほか絵画や書、手工芸など八部門があり、安江さんの作品は、応募六十八点の中から選ばれたものです。

この歌は、広報文芸にも載っている木の実に投稿したもので、自分でコンクールに応募した

ものではないので入賞の通知がきたときは喜びというより驚きのほうが大きかったです

と話してくれた安江さん。短歌を始めたきっかけは、二年前に亡くなられた奥さんが若いころから短歌が好きで投稿などをしていたからだとか。

妻が亡くなってからその寂しい気持ちを紛らわすためにまね事ではじめました。一度木の実

のことに投稿したら、伊藤重雄さんに続けるようにすすめられて、三十一文字の中に身の回りのことや環境のことを詠み込むことは難しいですが、いい作品ができると嬉しいものです」と

安江さん。

ここ数年か月身を患われて、短歌は休んで

いるようですが元気がなったらまた始めたいと話

してくれました。

賞状を手にする安江化平さん



賞状を手にする安江化平さん

実物

「村と戦争」の題字
平和記念館を飾る



東海テレビのスタッフによって届けられた題字

三月十一日、一時間半にわたり放映されたドキュメンタリー番組「村と戦争」。「戦争」をテーマに村を題材にして、東海テレビのスタッフが約一年半をかけ製作したこの番組をご覧になった方はたくさんあると思います。この番組の中で題字の力強い文字が印象に残った人もあったのではないのでしょうか。

実はこの文字、この番組のために、東海テレビのスタッフが名古屋在住の書家山本史鳳さんに依頼をされ書かれたもの。山本さんは、毎日書道展などで入選の経歴を持ち現在フリーで活躍される書家です。番組の題字は、百点を越える候補を書かれたうえであの一点が選ばれたものとか。

この書の原本が東海テレビのスタッフから村へ寄贈されました。この書は、山本氏の篆刻入りの立派なもの。さっそく平和祈念館の一階へ飾られました。

この書の原本が東海テレビのスタッフから村へ寄贈されました。この書は、山本氏の篆刻入りの立派なもの。さっそく平和祈念館の一階へ飾られました。



平和記念館に飾られた題字

話題集まれ!

贈物

還暦を記念して
亥子の会が絵画寄贈

このほど村と森林組合へ「亥子の会」(代表・小林嘉吉さん、日向出身)可児市在住)の皆さんから油絵二点が寄贈されました。

この会は、昭和十年亥年と十一年子年生まれ、旧越原小学校卒業生の皆さんで結成されたもので、会員数は三十五人。一年か二年おきに下呂温泉などで集まってクラス会などを行っています。

今回の寄贈は、この会の皆さんが今年還暦を迎えられたことを記念して行われたもの。贈られた二点の油絵は、この亥子の会の会員で、現在岐阜市在住の画家桂川清甫さん(日向出身)の作品です。



林業センターに飾られる「山とゆり」

四月一日、亥子の会を代表して桂川さんほか安江富士夫さん(東京都)、牧野さとさん(美濃加茂市)、日比野千恵子さん(美濃加茂市)の四人が来村。寄贈された油絵は、役場と林業センターにそれぞれ飾られました。



役場1階に飾られた「献花」

研修

やっぱりおおせいだと
思わず食も進みます



細かい作業もお手のもの

ボランティア団体かすみ草の活動の一つ、「独居老人お料理教室」が、去る三月十日、村内四会場(こもれびの館、越原センター、子護会館、五加センター)で行われ、お年寄りの皆さん二十人が参加、楽しみながら

作れる料理に挑戦しました。

この日のメニューは、麦ごはん、すいとん、ミルク茶わん蒸し、ミカンと白菜のサラダの四品目。この教室では、かすみ草の皆さんがお年寄りたちの料理の先生です。

午前九時に各会場に集まった参加者の皆さん、材料づくりから取り掛かり、お昼には自分たちで作った料理に舌鼓。男性の参加者が、四人ということもあって、作るときには少々遠慮もあったようですが、「大勢で食べる食事の味は格別」と食後のおしゃべりは大いにはずんでいました。



会話がはずんで楽しく調理

趣味

ちょっとした思いつきが
今では生きがい...

「思い付きで始めましたが、今では作らんと落ち着かんで、病気みたいなもんですよ」と話してくれたのは、上親田の島倉とくのさん。

三月の終わりころ、とくのさんから役場へ届けられた小さな包み。中身は、割りばしの袋を三つ折りにして中につまようじを五本入れ包装したものが約三百個詰められていました。さっそく「ご自由にどうぞ」というはり紙とともに役場窓口に置かれています。この贈り物についてとくのさんを訪ね話を聞いてみました。

「九年くらい前、老人クラブで墓地の清掃をやったとき、弁当を食べ終わった後、みんな笹の枝を折ってつまようじ代わりにしていました。また、見ていると弁当についている割りばしの袋はゴミになっていました。この割りばしの袋をわるさで折っているうちに思いついたんです。今までに四千は作ったでしょうね。雨の日や夜テレビを見ながら作ったりして...。今までに方々に配りました。

今ではみんな作ることを知ったので、割りばしの袋をくれる人もありますよ。頭の運動と思ってやっています。どうやらこの手仕事は、とくのさんの生きがいようです。



頭の運動と思ってやっています」と島倉さん



五加神社春まつりより

今月の笑顔さん

この欄がスタートしてすでに一年、四月が巡って来た。少し趣を変えてしばらくは歳時記の中に浸ってみよう。歳時記といえは俳句の季語を季節ごとにまとめたものだが、四季の彩りが明瞭な日本ならではの優れモノ、まさに季節の缶詰めみたいなものだ。

春の一日を表わす季語だけでも、春暁、春昼、春の暮、春の宵、春の夜、とキメこまかに分けられていて、春暁や水ほとぼり、瓦断燃ゆる 中村汀女……と明けた春日は、春の夜のいつまで残す夫婦の灯 石塚互……と、思わせぶりに更けて行くのである。

アレルギーの元凶杉花粉もすっかりと納まっている。杉の花瀬音は経を離れざり 中村秋晴

みんなが公園…のよつたよへージ

伝統を守り育ててこそ、自分の財産となる

美濃加茂市立加茂野小学校長 木村 龍幸

低温続きで桜の開花が少し遅れていると聞きます。そんな中にも、東白川村は美しい芽吹き季節となり、新人生の晴れやかな笑顔を迎えるころとなりました。

突然の異動で、この四月、東白川村を離れることとなったのが今でも信じられません。二年間、いつも温かくご支援下さいましたPTAや村内のたくさんの方々の皆様方に心から感謝を申し上げます。

小学校が長年にわたって、受け継いできた健康教育は、村行政当局の基本理念を教育の場に位置づけたものであります。この間、学校医をはじめ、たくさんの方々が先進的な考え方を取り入れ、また実践してきたことが全国的に認められたのであります。これから一番大切になることは、子どもたちが自身の健康を自ら管理し、着実に生活に結びつけることではないでしょうか。

皆さんの努力を期待しています。

お便り



木村 龍幸先生



職場から

病院

帰って来ました。

二年間東白川病院でお世話下さった吉田実先生に代わり、この四月から杉山照幸先生が二年振りに

平成二年から三年間、東白川病院に在籍されその後、県立岐阜病院にみえましたが春の異動で再び村へ。"こんなに早く戻って来られるとは思いませんでした。東白川は、顔なじみもたくさんいますし、勉強させてもらった所なのでお返ししたいと思っていました。良い時期に戻って来られたと喜んでいますが、二年前と比べると道路がずいぶん良くなったし、施設がたくさんできてきていることには、びっくり"と杉山先生。

奥さん早苗さんとお二人で懐かしい村での生活が始まりました。



わが家のスター

いつも明るい笑顔で飾ってくれるこのコーナー。今月は満1歳の子が1人もありません。左の表は、6年度村内に生まれた子どもたち。1年間でわずかに16人です。"少子化"の波は村にも押し寄せているようです。

2 ツーショット 新婚さん



桂川恒裕さん・葉子さん（黒淵）

「結婚と同時にふるさとにUターン」。今月のツーショットは、二月四日に結婚式を挙げられた新婚さん桂川恒裕さん、葉子さん（黒淵）ご夫妻を尋ねました。奥さんの出身地は、一宮氏。村に戻る以前、愛知県木曾川町に住んでいたご主人と知り合ったきっかけは奥さんの友達がご主人と同じ職場だったからとか。約七年間という長い交際の末、ゴールインとなったお二人。奥さんにとっては「市民」から「村民」となっ

たわけですが、村の印象について尋ねたところ「まわりの人たちが温かい人ばかりですし、あまり不便だとか感じたことはありません。初めてきたのが夏だったから涼しくて住みやすいというのが印象に残っています」とのお答え。お子さんについての質問には、お二人そろって三人くらいがご希望。特に奥さんは、女の子が一人は絶対欲しいとのこと。黒淵にさわやかなカップルの誕生です。

今月のことば

人間をとるに從って鏡に自分を写す必要がありません。外出時には男も手鏡持参とし家には姿見の鏡を置くことにしたい。オシャレは自分のためにある。（長寿財団 田中三郎さん）



下親田

親田地区が、現在のように上親田と下親田の二つに分かれたのは、「新修東白川村誌」によれば享和三年（一八〇三）だったといえますから、今をさかのぼる百九十二年前。

つちのこ目撃話が多い村の中でも、特に多発地域としてつちのこ捜索イベントのメイン会場ともなるこの地にはイベントの始まった平成元年鎮座した樋の子神社があります。この神社は、縁起によれば、下親田の安江重利さんが、昭和三十四年につちのこの遺体を発見し、埋葬したものを現在の神社の地に墓を移し御神体としておまつりしたものと。例祭日は五月三日。この日は、「つちのこ捜索大作戦」の行われる日でもあります。いよいよ間近に迫ってきたつちのこイベント。メイン会場の農村公園は今年も大勢の人で大賑わいとなることでしょう。

図書室発・あなたへ



「フェリックスの手紙」アネッテ・ランゲン著

ある日、ソフィーのもとにロンドンから一通の手紙が届きます。差出人は彼女が大切にしていたウサギのぬいぐるみのフェリックスだったのです。小さなウサギのハラハラ、ドキドキの大冒険。フェリックスはいろいろな街から手紙を書いてくれます。いったいどんな手紙なのでしょう。それは本を開いてからの楽しみ……。

ホットアングル



「春の珍事！」。平の東淵で39センチ、700gという巨大イワナが見事釣られました。釣ったのは、平の安江政辰さんのお子さん朋也さん（中学2年生）。白川ではほとんど見られないイワナで、しかもこの大きさ。養殖か天然かはともかく、今年のギネスの目玉になることでしょう。



平成6年度出生数

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
出産数	男	0	1	0	0	0	1	0	1	2	1	0	6
	女	0	2	0	0	1	0	0	1	2	0	1	10
合計	0	3	0	0	1	0	1	1	3	2	2	3	16

(平成6年4月から平成7年3月まで)

発表わたしの作品

広報文芸

俳句

裏木曾や春立つ川のさゝ漏り
火の山へ雪降りてより晴れつゞく
ゆったりと杭の頭へ冬鷗
湯気立て、朝日に消ゆる名残り雪
寺屋敷名のみ残りて梅咲きぬ
啓蟄の眼にこの世まぶしかり
初伊勢や玉砂利踏んで人の波
初春の天さす巨木神の庭
八方を睨む龍にも鐘もち
赤南天雪を被りて輝けり
花冷えや脈とる医師の手温かし
手のひらの豆腐背すじに冴え返る

日向 安江一滴水
栃山 安江 市助
加舎尾 新田 義男
平 今井 統子
西洞 河田あや子

寒空へ穂先りんと杉木立
枝打ちす息子の鈍音寒明けり
針供養瓶の底の針光る
伊勢講の箱書四代前の祖
万緑や丸き茶畑にうねの波
沈む夕日黄砂にぼけたる卯月かな
春の陽の輝う池に鴨遊ぶ
幼子の仕草へ和む四温晴れ
暖かき日ざしを背に種植える
春の霜足跡並べ通学生
春昼や野鳩も交る放ち鶏
卒業し通学自転車みがきあり

あなたも作品をお寄せください！初心者、とくに若い人たちの投稿を歓迎します。奇数月の二十日までに神戸河田重喜宛に出して下さい。

曲坂 新田 清美
日向 田口 秋映
加舎尾 今井 周一
平 安江 すみ
平 安江 すみよ
西洞 河田 重喜



▲壁画 越原保育園卒園記念作品
卒園児 15名



版画「仲間の顔」
東白川小学校6年生
安江理菜さん（日向）



▲「私の生まれた時」
東白川小学校3年生
村雲可奈子さん（平）



▲スクラッチボード「自画像」
東白川中学校3年生
安江健太郎さん（日向）



▲スクラッチボード「自画像」
東白川中学校3年生
鈴木永尚さん（陰地）

「日本の川は青くて澄んでいる」作家有吉佐和子さんが日本に帰ってびっくりしたことだという。そして四季の移り変わりがあることも：▼有吉さんは父親の仕事の都合で外国に生まれ外国で育った。外国で見た川はすべて土色や茶色に濁った川ばかり。ガンジス川、ナイル川、ボルガ川、ミシシッピ川、秘境アマゾン川、そして中国の黄河や長江も：有吉さんは、川というのは赤く濁ったものと思いついていたという▼だから作品『紀の川』では執拗に紀の川の澄んだ美しさを追った▼春夏の国で育った有吉さんには、日本の春夏秋冬を覚えることが難しかったそうだが、四季を感覚的に身に着けることができず、一つ一つを記憶する苦しさが続いたという▼私たちが日本に住んでいるが故にふるさとの良さの実感に乏しい。掛け声だけでなく、ふるさとを青く澄んだ川、四季の移り変わりのすばらしさを再認識したい。(H)



「日本の川は青くて澄んでいる」作家有吉佐和子